

声と心を合わせて校歌を歌う

各学級の代表者5名に修了証を渡しました。修了証の「しゅう」という字は「終わる」という字ではありません。修学旅行の「修」です。この字は「おさめる」と読み、「身に付ける」という意味があります。ですから修了式とは、この1年間を通じて学習面でも生活面でも様々なことを身に付け、「私たちの成長した姿を見てください」という式なのだと考えています。皆さんはこの1年間で成長することができたでしょうか。学年主任の飯野先生は、「時場礼」の「時」時間を守ること、「礼」挨拶をできることが、しっかり身に付いたとお話していました。また、修学旅行や体育祭、SUNフェスタなどの学校行事で発揮したリーダーシップやフォロワーシップも成長の1つとお話になりました。私も皆さんの成長や頑張りをそれぞれの場面で感じてきました。よく頑張ったと思います。

修了式にあたり、校歌についてのお話をします。私は、自分が卒業した学校や勤務した学校の校歌1番を歌うことができます。今でもふとした時に口ずさむこともありますし、同窓会で皆と歌うこともあります。そうすると、40年前、30年前、20年前の教室の風景や友達、教え子との思い出が、まるで映像を見るかのように浮かんできます。校歌には不思議な力があると感じます。その時代、その場所(学校)に偶然集った者だけが、世界に一つしかない、その学校の校歌と一緒に歌うのです。校歌に思い出がぎゅっと詰められるような感覚なのではないでしょうか。それぞれの学校の校歌が、私の心の支えになっています。

コロナ禍の3年間でしたから、学年や全校の生徒が一堂に会し校歌を歌う機会をつくることはできませんでした。やっと、本日の修了式や明日の卒業式において、学年全体で校歌を歌い、体育館に響かせることができます。始業式でもお話しましたが、本校の校歌は、歌詞に「一天瑠璃」「日輪煌」など難しい漢字を使った言葉が並び、独特な響きが特徴です。一番の出だし「一天瑠璃に三尻野や」からは「真っ青な空のもと、三尻の平野が広がっている」映像が浮かんでくると思います。私は、この校歌に愛着があるからでしょうか、どこにも負けない、最高の校歌だと思っています。本日の修了式や明日の卒業式での校歌斉唱をととても楽しみにしています。この学年の仲間たちと声と心を合わせて、母校・三尻中学校の校歌を歌う瞬間を楽しんでほしいです。そして、校歌への誇りを胸に感じながら、卒業後に口ずさんだり、同窓生と声を合わせて歌ったりしてほしいと願っています。

明日は、卒業式です。卒業式では卒業生と教職員は原則マスクを外します。ですから、卒業証書を渡すときには、細心の注意を払って、無言で手渡そうと考えています。一人一人に「おめでとう。がんばって。」と言葉には出さなくても、心の中で念じています。明日は、9年間の義務教育を締めくくる大切な日です。そして、未来に向かって新たな一歩を踏み出す日になります。しっかりと心構えをもって明日の式に臨んでください。

以上、令和4年度 第3学年修了式の式辞とします。